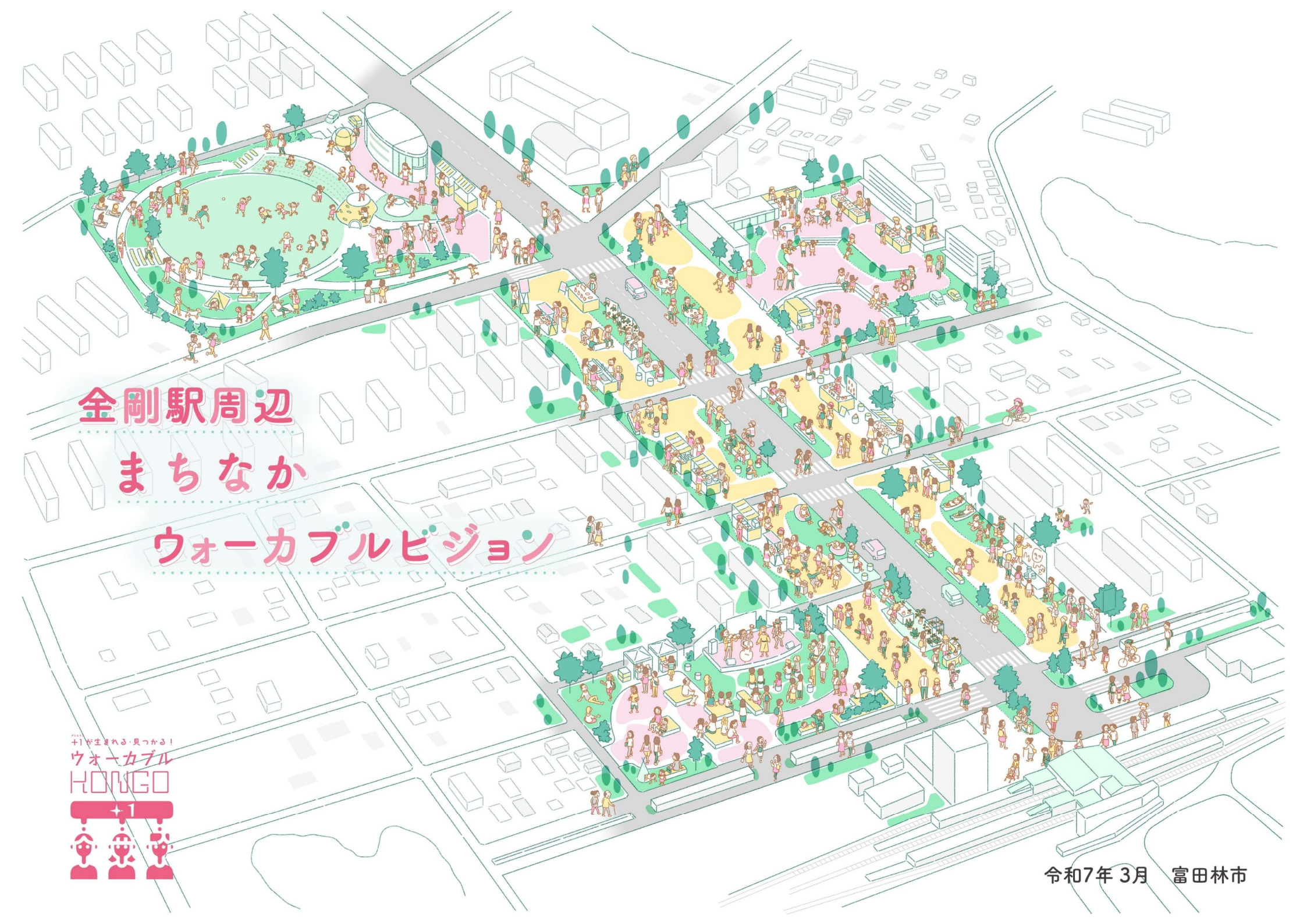




全剛駅周辺

まちなか

ウォーカブルビジョン

「+1」が生まれる・見つかる！

ウォーカブル
HONGO



令和7年 3月 富田林市

金剛地区は“住む”だけのまちじゃない。

金剛地区での暮らしの選択肢や楽しみ ^{プラスワン} + 1 を
みんなで生み出し、見つけることで
まちに出る喜びを享受しよう。

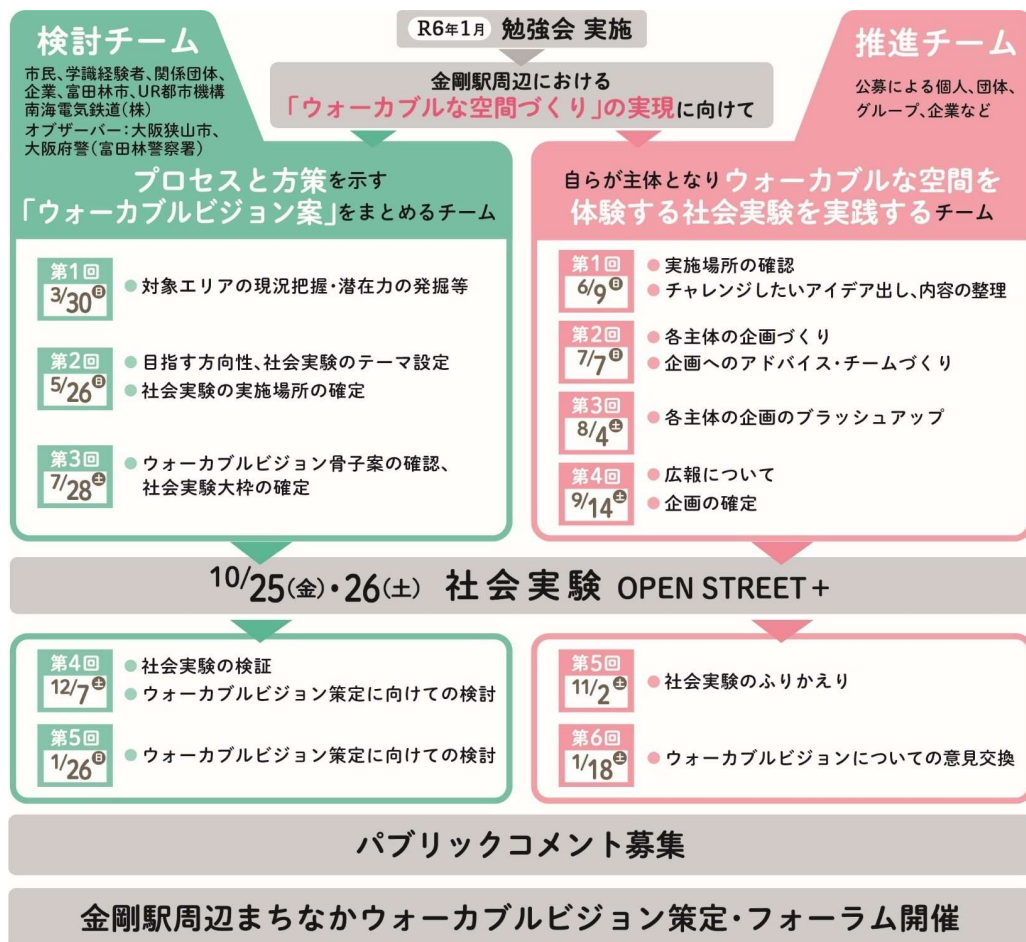


策定のプロセス

金剛駅周辺まちなかウォーカブルビジョン（以下「ビジョン」という）の策定に向けて、地区住民、事業者、地権者等による検討チームを組織し、**将来のまちのめざす姿やその実現に向けたプロセスと方策の検討**を行いました。また、ビジョンの策定にあたり、住民、事業者等による推進チームが主体となり、**10年後のめざす姿を仮設的に実現し、検証を行う社会実験「OPEN STREET+」**を実施しました。

本ビジョンはこれらを踏まえて策定しています。

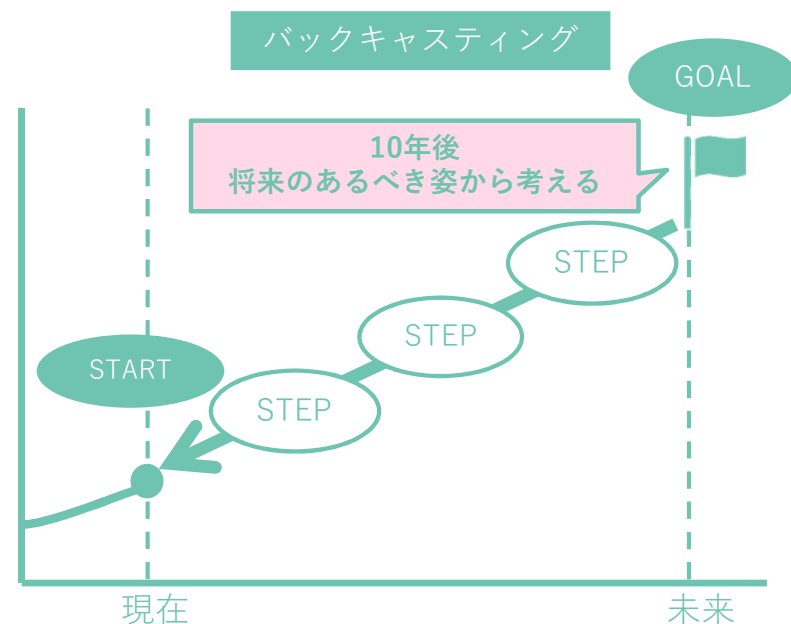
○ビジョン策定のプロセス



ポイント

ビジョンの検討プロセスでは、

- **バックカスティング※**により10年後のあるべき姿から考える
- 10年後、人中心の居心地の良いまちになっている各エリアで「**誰が（ペルソナ）×何をしているか（アクティビティ）**」をメンバーが想像し具体化することにより、めざすまちの姿・方向性を深掘りしました



※将来の「ありたい姿/あるべき姿」を描いたうえで、そこから逆算して“その実現方策”を考える思考法。

目次 INDEX



第1章	はじめに	5
	1. 背景	
	2. 目的	
第2章	めざす方向性	12
	1. めざすまちの姿	
	2. めざすまちなかのシーン	
	3. 金剛駅周辺でのウォーカブルな空間づくりに向けた各エリアの関係性	
第3章	潜在力と課題	20
	1. まちなかの居心地の良さ	
	2. 快適な歩行環境・回遊性	
	3. 潜在力と課題の整理	
第4章	実現に向けた取組	30
	1. 3つの基本方針	
	2. 各方針に基づく取組	
	3. 今後に向けて	

第1章



はじめに

1. 背景
2. 目的

1. 背景

1

○国内のウォーカブルなまちづくり

1

ウォーカブルとは？

ウォーカブルとは、「居心地が良く歩きたくなる」「歩くのが楽しい」などの意味があります。

- ・現在の日本は、人口減少、高齢化社会の本格化や、中長期的な労働人口の減少、経済の停滞、自然災害の多発や温暖化・気候変動への対応等、社会経済情勢の大きな変化に直面しており、各都市は将来に向け持続可能な都市構造へ再編を図る必要性があります。
- ・国では「居心地が良く歩きたくなるまちなか」として、「WE DO」(Walkable、Eyelevel、Diversity、Open)をテーマにウォーカブルなまちづくりを推進しています。
- ・ウォーカブルなまちづくりは車中心から人中心の空間に転換し、まちなかの歩ける区域の街路・公園・広場等の修復・利活用を進める取組で、まちなかの公共空間と隣接建物低層部を一体的に捉え、公民連携で人中心の居心地の良い空間に改変する取組が全国的に進んでいます。

※「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の4つの共通する特徴

Walkable（ウォーカブル） | 歩きたくなる

- ・居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level（アイレベル） | まちに開かれた1階

- ・歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えると、人は歩いて楽しくなる。

Diversity（ダイバーシティ） | 多様な人の多様な用途、使い方

- ・多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open（オープン） | 開かれた空間が心地良い

- ・歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。



出典：国土交通省ホームページ掲載図から抜粋
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000081.html

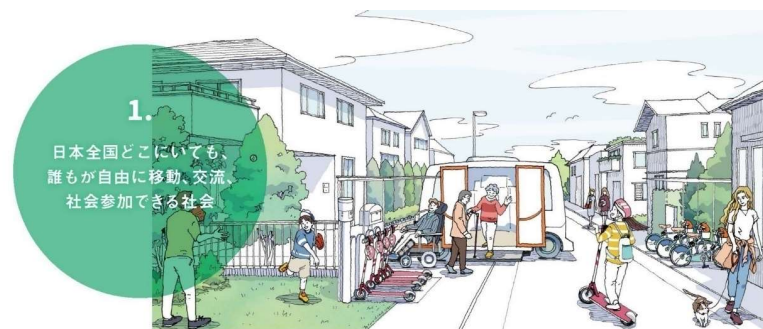
第1章はじめに

第2章

第3章

第4章

- 国土交通省がまとめた「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」では、概ね20年後の社会を見据え、以下3つの将来像と政策の方向性を提案しています。
- 日本においては、今後更なる人口減少、高齢化が進むことで、誰もが自由に移動、交流、社会参加できる社会が求められています。
- 中長期的な労働人口の減少、日本経済が停滞する中で、世界と人・モノ・サービスが行き交うことで活力を生み出す社会の構築が必要とされています。
- 自然災害の多発や温暖化・気候変動への対応として、災害脆弱性とインフラ老朽化を克服した安全に安心して暮らせる社会が求められています。



(背景・予測される変化)

人口減少
高齢化
若年世代の変化
モビリティ革命



日本経済の停滞
物流システムの持続可能性
外国人（訪日外国人・定住者）の増加



自然災害の多発
温暖化・気候変動
低炭素化
インフラの老朽化

出典：2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（国土交通省）を基に作成

○世界でのウォーカブルなまちづくり

★1 ポイント

世界の多くの都市で車中心から“人間中心”の空間づくりが進められています。

世界中の多くの都市で、街路空間を車中心から“人間中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使用して、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取組が進められています。これらの取組は都市に活力を生み出し、持続可能かつ高い国際競争力の実現につながっています。



出典：国土交通省ホームページ掲載図から抜粋
https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000081.html

★1 ポイント

“人間中心”の空間づくりを進めるうえで、アクティビティ（行動・活動）の充実が必要です。

ブライアントパーク（アメリカ・ニューヨーク市）の再生を行ってきたことで知られる、非営利団体 Project For Public Spaces は、利用者がそこにいる様々な理由＝アクティビティ（10 以上）を持っているときに場所が活性化するという理論に基づいた「プレイスメイキング」の手法を開発しました。

その手法に基づき運営されているブライアントパークは、カフェ、レストラン、読書、ストリートチェス、卓球、スケートリンク等、多様な主体による多様なアクティビティがオールシーズン行われる場所となっています。



○ウォーカブルな空間づくりがもたらす効果（一例）

✓ QoL（生活の質）向上、まちへの愛着の醸成します

- まちなかに人にやさしい居心地の良い空間が創出されることで、子どもから高齢者まで多様な層がまちなかに出る機会が増え、まちで過ごすことの満足感や充実感を生み出し、まちへの愛着を醸成します。

✓ 災害時の避難場所、拠点として機能します

- まとまった公共空間や街路は、災害時の一時避難場所や避難経路として有効に活用することができ、復興の拠点として機能することも想定されます。

✓ 交流を通じたイノベーションの創出等により、沿道店舗の売上増・不動産の活発化につながります

- 愛媛県松山市花園町通りでは歩行空間の拡大・沿道と一体となったデザイン整備により、歩行者数が整備前後で約2倍に増加し、地価も上昇に転じています。

✓ 安全・快適に滞在できる空間を確保できます

- ニューヨークのタイムズスクエアは歩行者空間化を実施した結果、歩行者数が大きく増えたにも関わらず、歩行者負傷者数は約35%減少しています。

✓ 社会課題の解決に繋がる可能性があります

- 高齢化の進展や、不寛容な社会がもたらす「孤独」の増加等が課題となる中、居心地の良い空間の創出は人と人との新たな繋がり、構築、交流の増大、健康増進等をもたらします。

2. 目的



○ビジョンの目的

本市金剛地区（高辺台、久野喜台、寺池台）は、富田林市の中心部から西へ2～3kmに位置し、市の西の玄関口として成熟してきました。開発後、半世紀以上が経過し、人口減少や少子高齢化、施設の老朽化等、いわゆるニュータウン問題が顕在化しています。本市では、金剛地区の交通結節拠点である南海金剛駅を起点とし、金剛銀座街商店街を経由し金剛中央公園までの約520mにわたる「ふれあい大通り」を地区活性化の中心軸に位置付けるとともに、滞在快適性等向上区域（ウォーカブルエリア）を設定し、回遊性・滞留性の向上や交流機会の創出、賑わいづくり、住民主体の多様な取組等を創出する、**ウォーカブルなまちづくり**をめざしています。

ウォーカブルなまちづくりの推進により、「**住む**」以外の機能が身近にあることで暮らしの豊かさや楽しさを感じることができ、**住みたい・住み続けたいと思えるまち**となることをめざし、ビジョンを策定します。

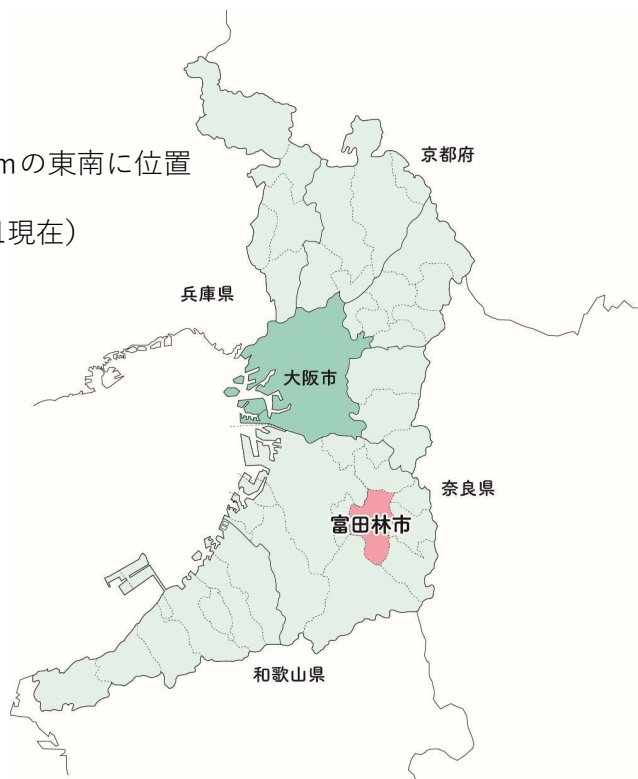
○富田林市の位置

富田林市

大阪府の中心部から約20kmの東南に位置

・市域面積：3,972ha

・人口：106,580人（R5.3.31現在）

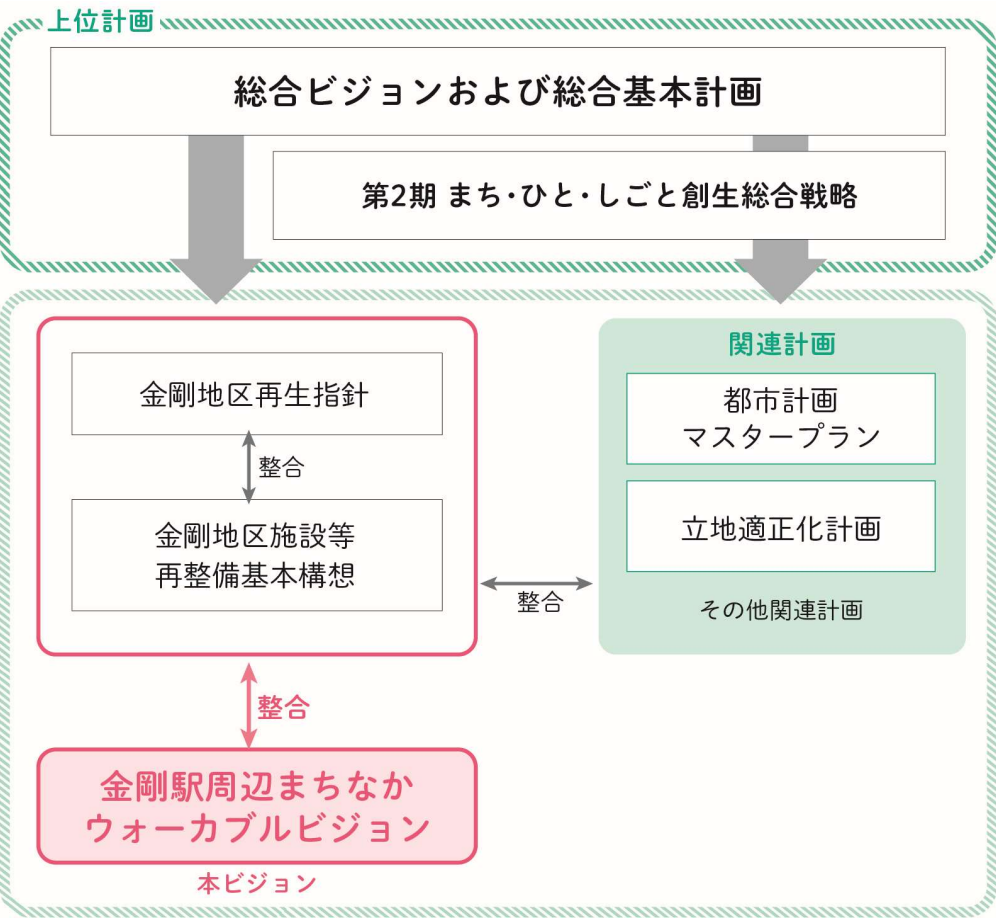


○金剛駅周辺ウォーカブルエリア



○ 他の計画との関連性

ビジョンは、「金剛地区再生指針」や「金剛地区施設等再整備基本構想」に基づき策定するもので他の関連計画との整合も図ります。



○関連する主な計画

金剛地区再生指針（H29年3月）
金剛地区のまちの将来像を「一人ひとりが煌（きらめ）き続けられるまち」、「閑静な趣（おもむき）を育み続けるまち」とし、将来像の実現に向けた取組を示しています。

▷「ふれあい大通り」を多彩な活動の場となる“まちの顔”として育む
金剛駅前から金剛中央公園間の「ふれあい大通り」は、“まちの顔”としての美しさ、風格を保つとともに、通り沿いは、豊かな時が過ごせて交流が生まれる広場や施設がつながる通りとし、人々の「煌き」と「閑静な趣」を持った、金剛地区を象徴する空間に育てます。沿道の施設や住宅において再整備を行う場合には、通りの美しさ、風格、にぎわいや 出会いの創出を実現します。

金剛地区施設等再整備基本構想（R4年3月）
金剛地区の施設等再整備に向けた「コンセプト」、「施設・エリア毎の方向性と導入機能」を示したものです。
コンセプト：

若者・子育て世代の定住促進

誰もが安心して健康に暮らせるまちづくり

交流人口・関係人口の増加

居心地が良く歩きたくなるまちなかを創出

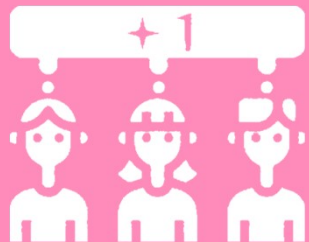
住民主体の多様な取組の創出

マルチパートナーシップによる多面的な魅力の創出

施設・エリア毎の方向性：

金剛中央公園	豊かで多機能な公園空間を創出
金剛銀座街商店街	近隣商業地域を活かした賑わいと住民の「やりたい」が叶う空間を創出
南海金剛駅周辺	魅力的で利便性が高く滞留性のある駅周辺空間を創出
寺池公園	眺望を活かした住民主体の公園空間を創出

第2章



めざす方向性

1. めざすまちの姿
2. めざすまちなかのシーン
3. 金剛駅周辺でのウォーカブルな空間づくりに向けた各エリアの関係性

1. めざすまちの姿

+1

お気に入りの場所とそこで過ごす楽しい時間、新たな出会いと交流など、
金剛地区に**目的地**が増え、**多様なアクティビティ（行動・活動）**がまちなかにあふれることで、
暮らしの豊かさと楽しさを+（プラス）できるまちをめざします。

○めざすまちの姿

+ 1（プラスワン）が 生まれる、見つかる！

お気に入りの目的地となるための「まちなかの居心地の良さ」があること、そこへアクセスするための「快適な歩行環境・回遊性」があることで、市民や来街者にとって、暮らしの豊かさと楽しさを+（プラス）できるまちが実現できます。

○+ 1の展開イメージ【Power of 10+（※）】

※様々な活動が起こる「場所」があり、複数の場所からなる「目的地」があり、いくつもの目的地が「都市・地域」の中にあることで、多様な魅力の連鎖や相乗効果が生まれ、都市・地域が多様な魅力・機能をもつこと。



都市の中のエリア

10か所程度の目的地が近接

エリアの中の目的地

10か所程度の小さな場所で構成

目的地の中の場所

10個程度のアクティビティが存在

出典：Project For Public Spaces ウェブサイト
<https://www.pps.org/article/the-power-of-10>

+ 1とは？：利用する人・行政・地権者等とのパートナーシップにより、目的地やアクティビティが増えていくプロセスも含んだ言葉です

第1章

第2章 めざす方向性

第3章

第4章

○アクティビティとは？

★1 ポイント

アクティビティとは、**人間が行う行動・活動**を意味します。

- 都市空間における活動は、①必要に迫られて行う活動はすべての条件のもとで行われる「必要活動」、②余暇的な性格の「任意活動」、③コミュニケーションを含む「社会活動」の3分類があるとされます。
- 特に、居心地が良い空間においては、以下の社会活動が起こるとされています。
 - 清掃や挨拶等、日常的な慣習として行われるような地域生活活動
 - 祭事やマーケット等、地域価値を高めるために行う地域文化活動
 - 演奏や大道芸ほか、芸術的あるいはエンターテインメント性の高い表現活動

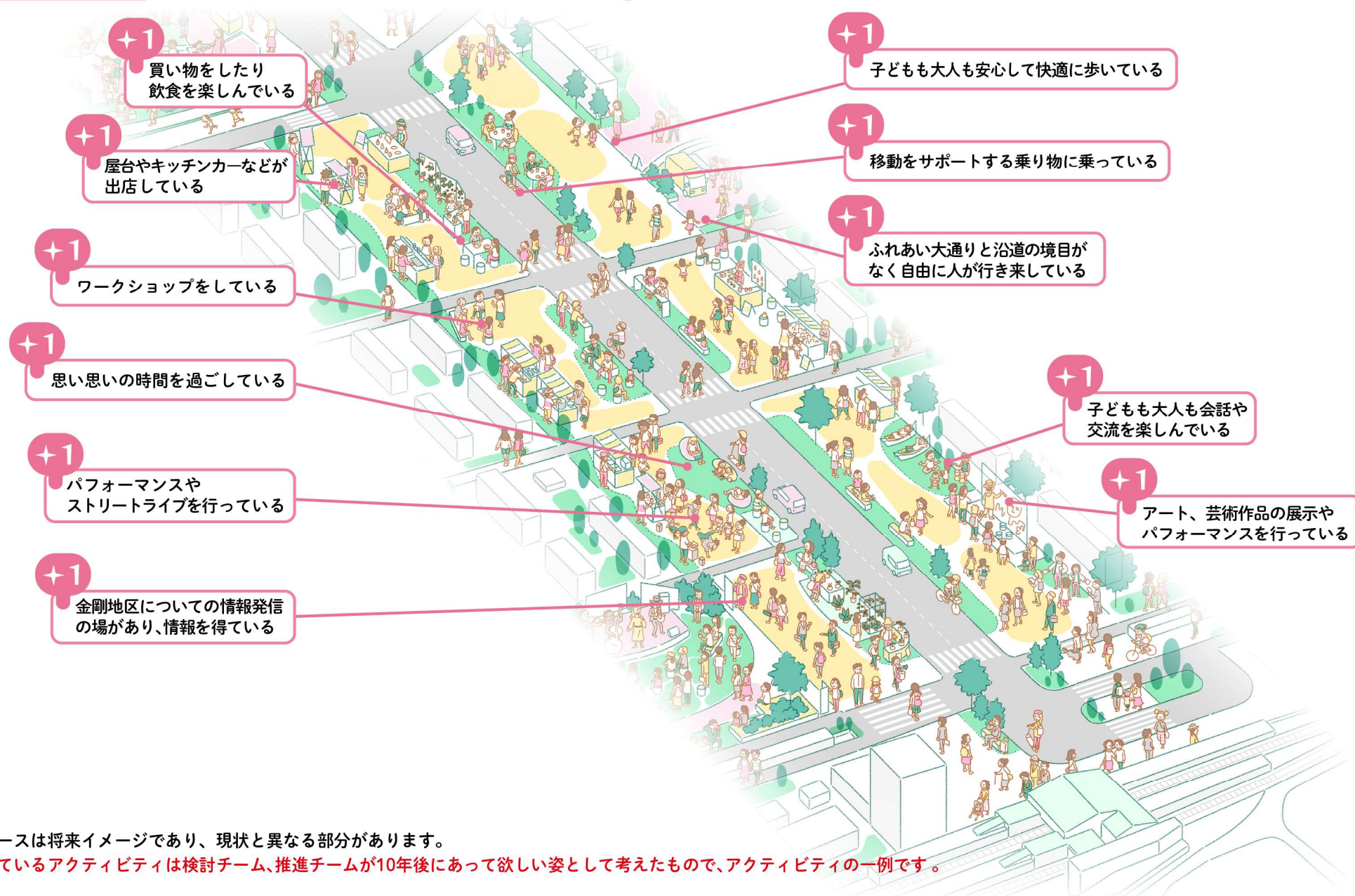
アクティビティタイプ	内容	具体例	
①必要活動	沿道等の目的地で目的を果たすための通行や立ち止まり	通勤、バス待ち、通行時の休憩、買い物	
②任意活動	来街者一人であっても楽しめる、地域やストリート景観、自然、雰囲気を感じながらの遊歩、運動、滞在	散歩、まち歩き、ランニング、写真撮影	
③社会活動	複数の利用者が存在することによるコミュニケーションや出会いに基づく活動	遊び、来街者と住民の会話、生活風景を眺める	
	(1)地域生活活動	社会活動のうち、特に沿道・周辺コミュニティの住民・店主等による日常的慣習としての活動	清掃、挨拶、井戸端会議、植栽の世話、見回り
	(2)地域文化活動	社会活動のうち、特に地域性のある祭り等、地域価値を高める目的で組織的に行う活動	祭り、街路市、打ち水、フリーマーケット
	(3)表現活動	社会活動のうち、特に芸術的・政治的な表現・言論、エンターテインメント性の高い活動	演奏、演説、大道芸、フラッシュモブ、パレード、募金

出典：ストリートデザインガイドラインー 居心地が良く歩きたくなる街路づくりの参考書ー（バージョン2.0）（国土交通省都市局・道路局）

2. めざすまちなかのシーン

1

ふれあい大通り 南海金剛駅を起点とした活性化の中心軸



※このパースは将来イメージであり、現状と異なる部分があります。

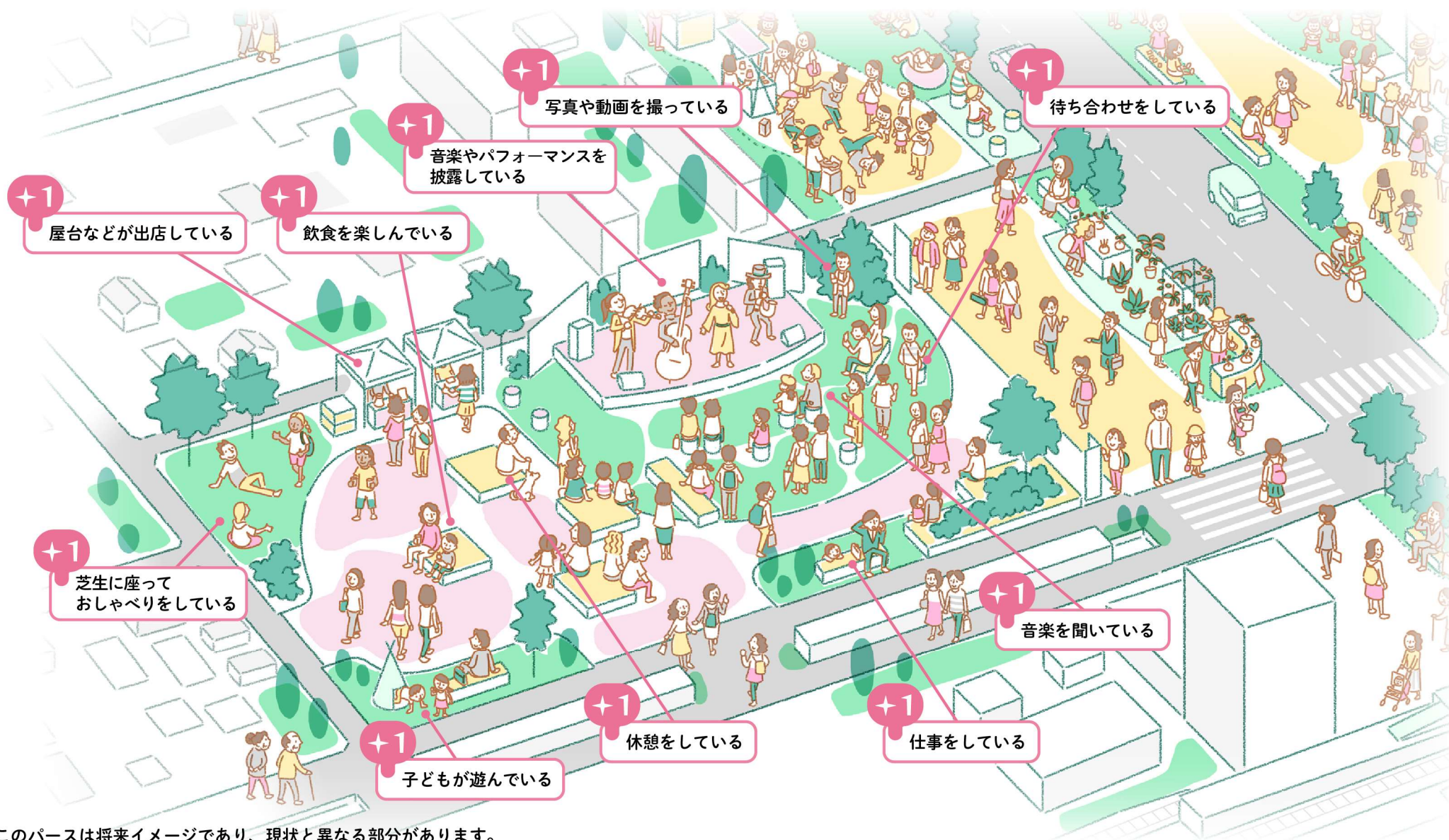
※描かれているアクティビティは検討チーム、推進チームが10年後にあって欲しい姿として考えたもので、アクティビティの一例です。

第1章

第2章 めざす方向性

第3章

第4章

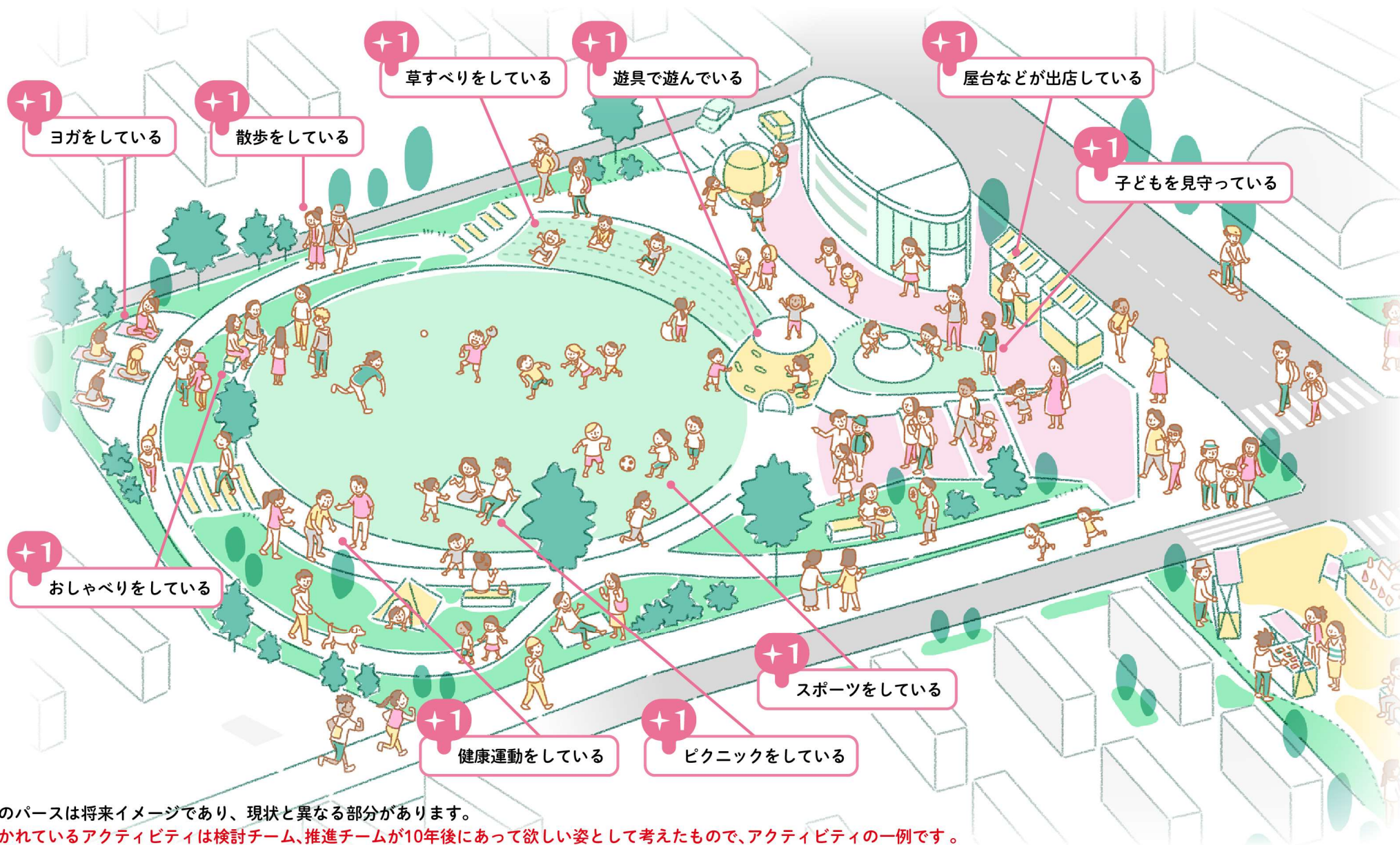


※このパースは将来イメージであり、現状と異なる部分があります。

※描かれているアクティビティは検討チーム、推進チームが10年後にあって欲しい姿として考えたもので、アクティビティの一例です。

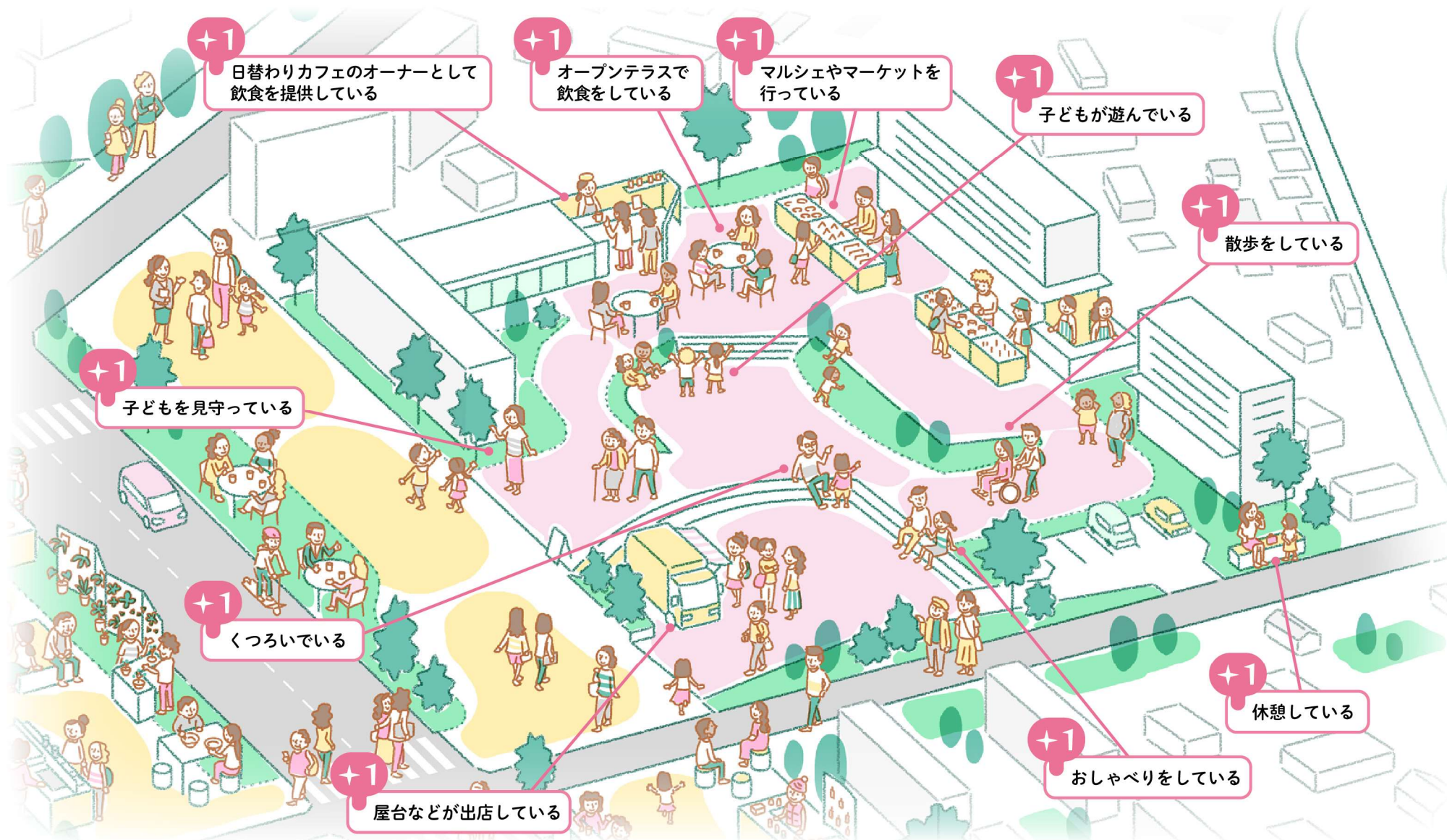
金剛中央公園

こどもたちの笑顔があふれ、みんなで豊かさを育むサードプレイス



※このパースは将来イメージであり、現状と異なる部分があります。

※描かれているアクティビティは検討チーム、推進チームが10年後にあって欲しい姿として考えたもので、アクティビティの一例です。



※このパースは将来イメージであり、現状と異なる部分があります。

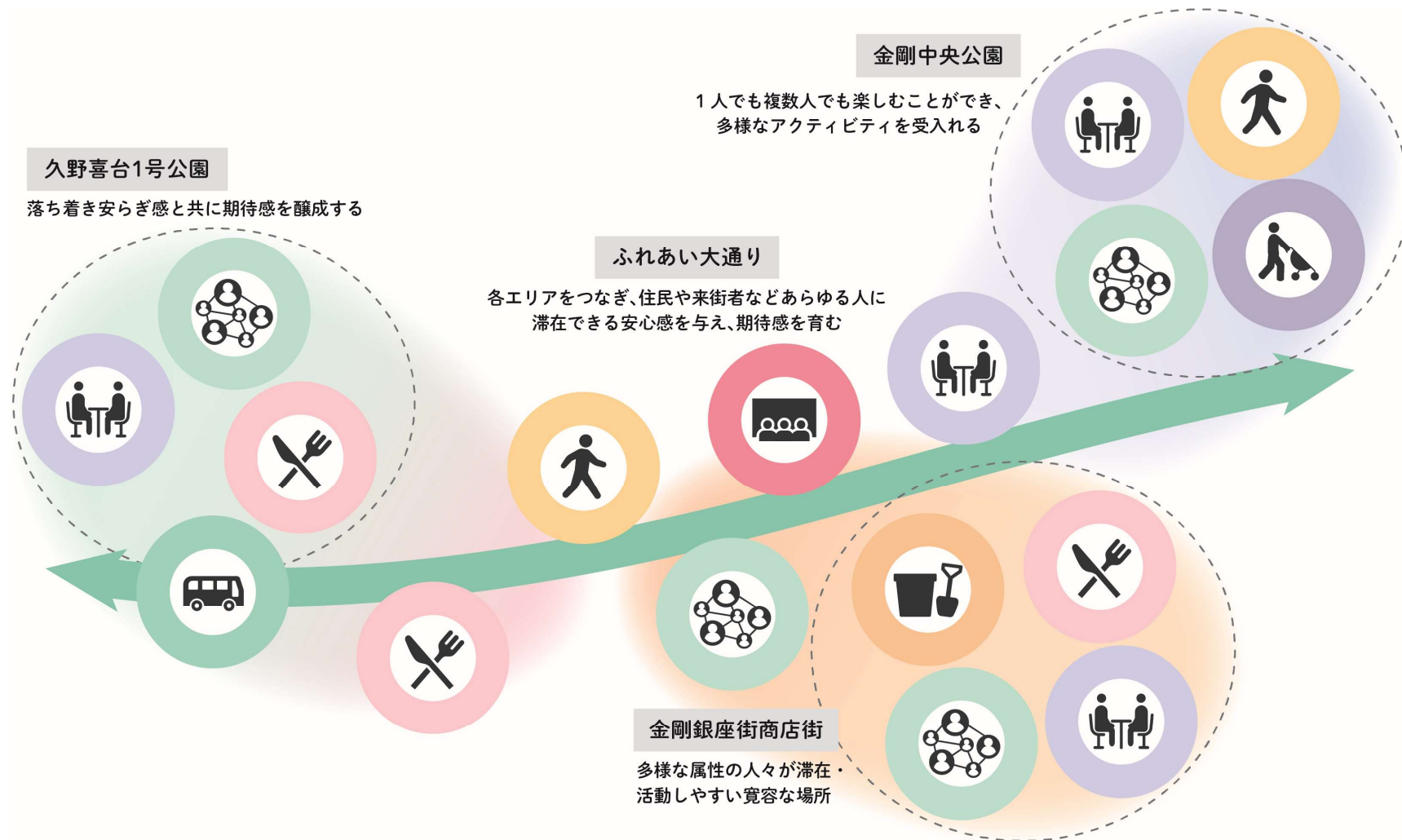
※描かれているアクティビティは検討チーム、推進チームが10年後にあって欲しい姿として考えたもので、アクティビティの一例です。

3. 金剛駅周辺でのウォーカブルな空間づくりに向けた各エリアの関係性

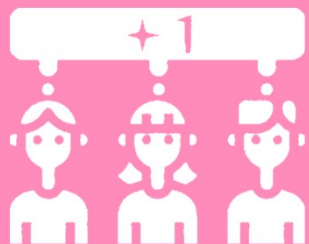


- ふれあい大通りを介して、各エリアのヒト・モノ・コトが繋がり、一体感を形成します。
- ふれあい大通りに各エリアのアクティビティが滲み出し可視化されることで、ふれあい大通りに賑わいや交流が生まれる状況を創り出し、金剛地区の多様性や寛容性を育み、居心地の良いまちとなります。

〈金剛駅周辺の各エリアと関係性のイメージ〉



第3章



潜在力と課題

1. まちなかの居心地の良さ
2. 快適な歩行環境・回遊性
3. 潜在力と課題の整理

1. まちなかの居心地の良さ

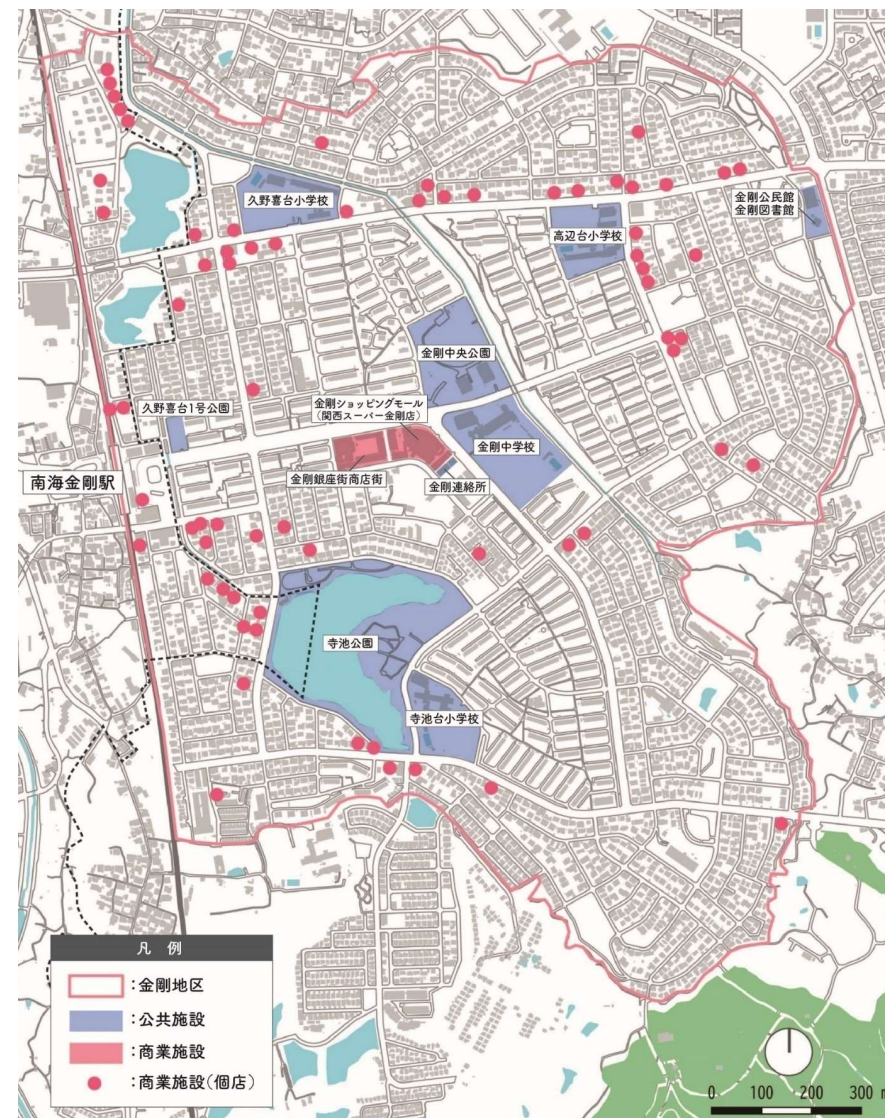


潜在力

- 金剛地区は中心部に公共施設や商業施設、南海金剛駅周辺や幹線道路沿いには個店が集積しています。
- 毎月第4土曜日の「金剛マルシェ」開催により金剛銀座街商店街は「居心地の良い」場として評価されています。
- 地区内の公共施設や民間施設で行われる趣味やサークル活動、居場所づくり等、小さな目的地が多数存在します。
- 社会実験「OPEN STREET+」の検証から、目的地となるためには空間形成とアクティビティ（行動・活動）が必要であり、金剛駅周辺は目的地としてのポテンシャルがあることが分かっています。

○公共施設・商業施設の分布

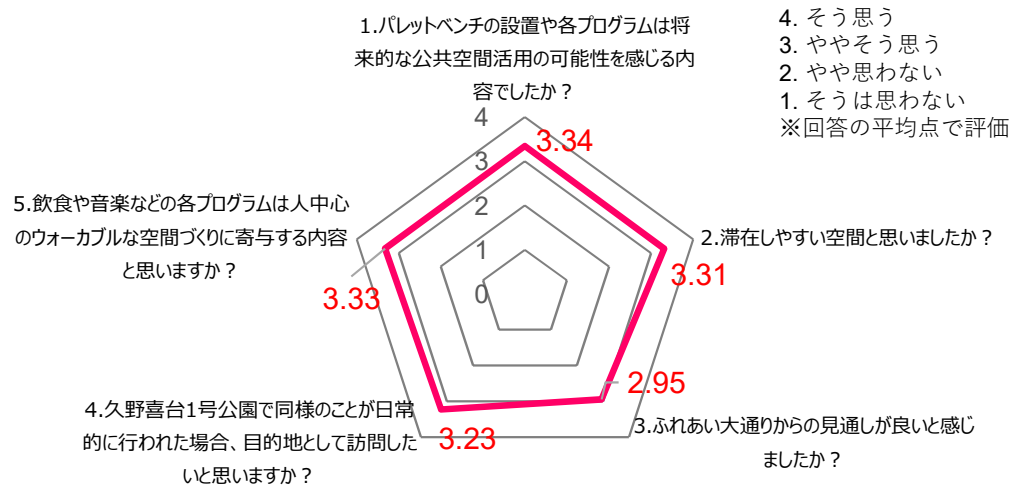
- 金剛地区には、目的地になり得る **まとまった公共空間等**が金剛駅 **周辺から中心部にかけて集積**しています。
- 地区北側の幹線道路沿いや、**金剛駅周辺・地区内**に飲食店等個店も点在しています。



○目的地の居心地の良さ、滞在のしやすさについて

- 金剛銀座街商店街で金剛マルシェ開催時に来場者を対象に行った金剛地区の公共空間についてのアンケート調査（R4年）では、「居心地が良いと思うか」、「また来たいと思うか」の評価が高く、**定期的にイベントを実施し、人との交流や出会いが生まれていることが「居心地の良さ」に繋がることが読み取れます。**
- 令和6年10月に実施した社会実験「OPEN STREET+」では、ベンチやカウンター等の設置（空間形成）があったうえで、飲食や音楽等のプログラム（アクティビティ）が行われることが、「滞在のしやすさ」、「ウォーカブルな空間づくり」、「目的地としての再訪意欲」に繋がることが分かっています。

久野喜台1号公園の社会実験の評価（N=106）



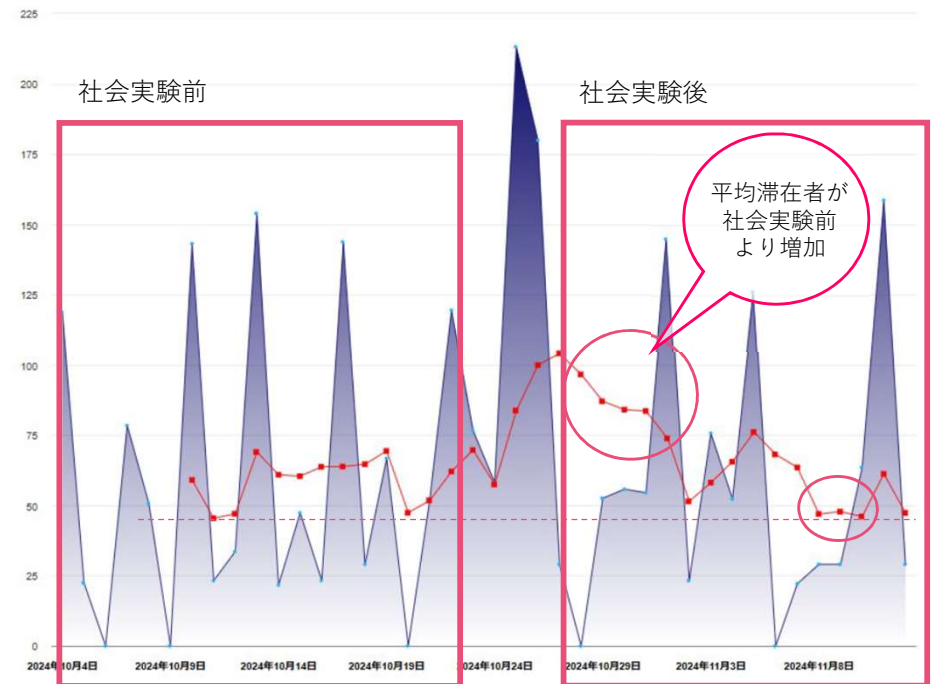
社会実験での空間形成×アクティビティによる滞在性の向上（久野喜台1号公園）



○滞在者数について

- 社会実験前後約3週間の対象エリアの滞在人口を見ると、社会実験当日（10月25日・26日）が突出しています。
- 社会実験直後の数日間は、10月29日を除いて社会実験前と比べると滞在者の平均が高い傾向にあり、これは、**社会実験の効果が尾を引いており、比較的このエリアに訪れて滞留する人が発生している可能性を表していると考えられます。**
- 社会実験の2週間後頃からは社会実験前に戻っており、一時の社会実験が与える持続的な影響は低く、**コンスタントに継続して社会実験を実施していくことが重要**と考えられます。

社会実験前後の滞在者数推移
（KLA（KDDI Location Analyzer）を用いた人流解析）



※対象エリア内での滞在時間が15分以上180分未満を算出している。時間帯は、9：00～24：00としており、深夜～早朝の時間帯は除く。
※図内の赤い折れ線は、対象日直前7日間の平均人数を示す。

○金剛地区のまちづくりの取組

- 公共空間を利用したい住民や事業者等の使い手が潜在的に存在し、それらの取組は小さな目的地を形成しています。

わっくcafe

- 地域住民が設立した団体（わっく金剛）が運営
- 参加型プロジェクトでつくる、多世代が集える常設拠点
- 日替わりオーナーカフェの仕組みを採用し、オーナーのアイデアと工夫により、多様な内容の居場所として展開
- オーナー自身の居場所（自己実現/チャレンジ）にも
- 運営団体により、毎月2回子ども食堂も開催されている



寺池公園等を活かしたまちづくり

- 地区魅力・利便性を高め、若者定住・皆が安心して豊かに暮らせる都市への再生を目標に、コミュニティ活性化、若者定住促進、都市魅力創出、シビックプライド醸成に取り組むPJ
- 任意団体を発足し地元町会や水利組合、大学等も巻き込み、寺池公園の水辺が眺められる空間づくりに向けた活動展開
- プレーパーク&パラソルカフェを実施



YouTube

金剛マルシェ

- 市内農家団体と連携した月イチ（第4土）のマルシェを開催
- 地域交流、居場所・賑わいづくり、商店街活性化、買い物支援、地元産野菜PRをめざしている
- URの協力により金剛銀座街商店街の広場スペースを借受
- 地元有志による実行委員会が発足し、自立的に運営
- さらなる活性化に向けて出展者拡大や季節イベントも



魅力向上拠点「∞KON ROOM」

- 市とURが共同設置する地区住民の「はたらく」「まなぶ」「つどう」場
- コワーキングスペース、自習スペース、会議スペース、休憩スペース情報発信の場を主な機能とし、コロナ禍によるライフ・ワークスタイルの変化を踏まえた運営
- 地域の声を取り入れながら、様々な取組（イベント等）も展開



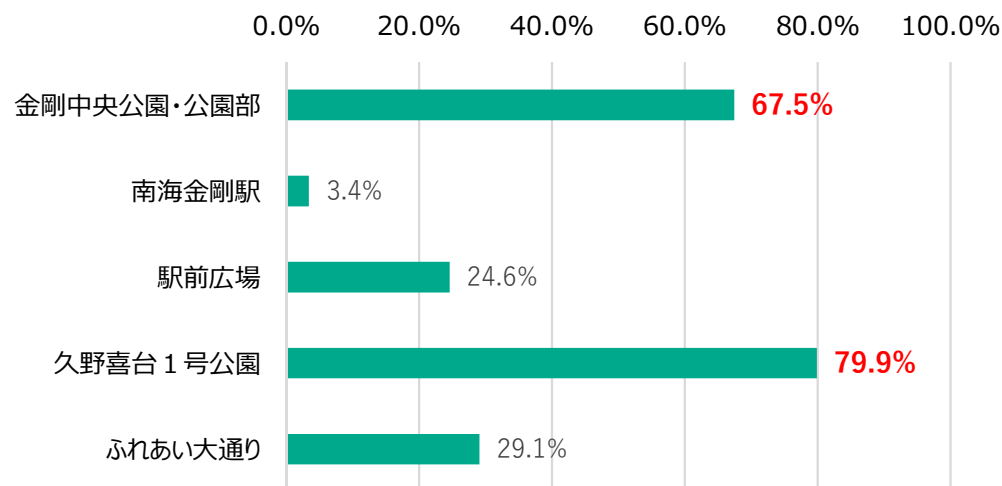


- 各公共施設等は老朽化が進んでいることに加え、利用率が低い施設も多く、滞在・交流を促進するアクティビティが少ないため、目的地として十分に機能していない状況です。
- 社会実験「OPEN STREET+」の検証から、目的地となるには、空間形成だけでは不十分であることが分かっています。

○公共施設等の利用状況

- 金剛地区住民を対象として実施した公共施設等の満足度・利用状況のアンケート調査結果（R2年）から、**金剛中央公園や久野喜台1号公園を「利用していない」人の割合が高い**ことが分かっています。
- 満足度・利用状況の低い理由として、「老朽化」、「管理が不十分」の環境面での要因に加えて、「**利用する目的・機会がない**」、「**人が利用していない**」、「**防犯面での不安**」等の、**目的・人の存在（アクティビティ）が乏しい**ことが挙がっています。

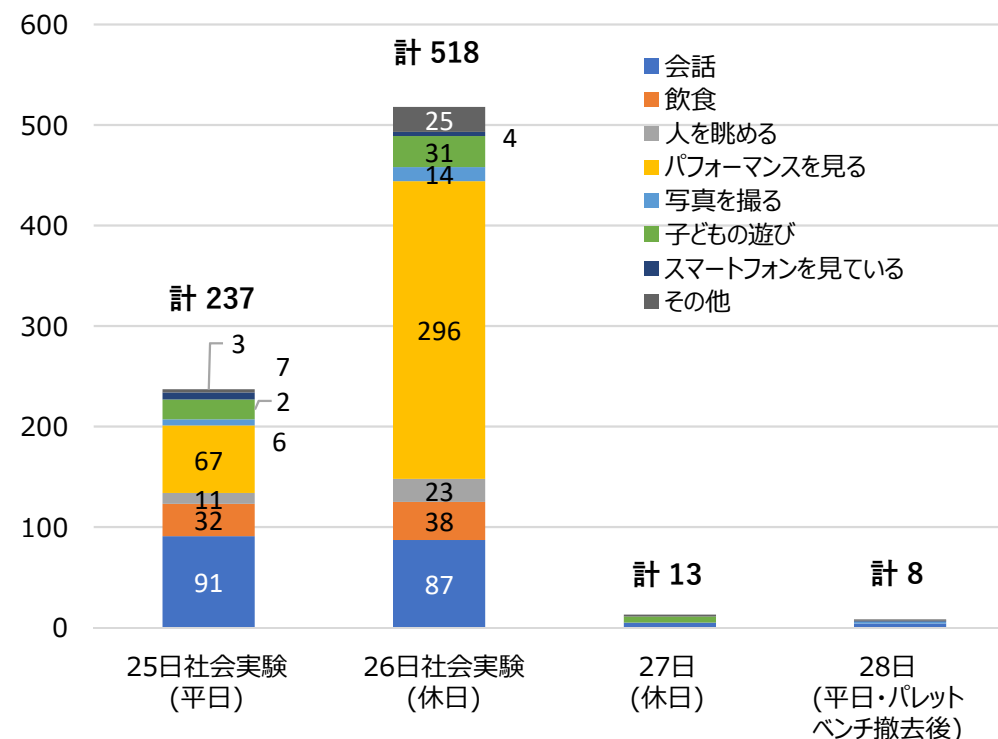
金剛地区各公共施設の利用状況・「利用していない」の割合（N=378）



○社会実験前後のアクティビティの違い

- 社会実験「OPEN STREET+」での久野喜台1号公園内での行動観察調査より、社会実験後の2日間（休日・平日）、社会実験当日と同様のベンチやパークレットを設置していたにも関わらず、滞在者がほとんど居ない結果となったことから、**滞在し交流が生まれる目的地となるためには、空間形成だけでなく、人のアクティビティ（活動・行動）が必要**であることが分かっています。

社会実験時後のアクティビティ調査・久野喜台1号公園パレットベンチ周辺



※10月25日(金)：社会実験時16時～19時半
※10月26日(土)：社会実験実施時10時～18時

※10月27日(日)：10時～18時
※10月28日(月)：16時～19時半

2. 快適な歩行環境・回遊性



潜在力

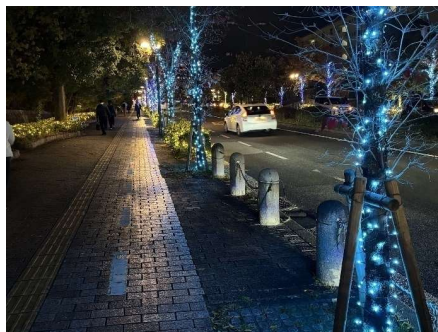
- 金剛地区内には大小16の公園が点在し、特に金剛駅周辺は公園と連続する街路樹・植栽などが存在し、豊かなグリーンインフラを有しています。
- 金剛駅周辺の道路は、十分な幅員のある歩道が整備されており、周遊可能で快適な歩行空間があります。
- 社会実験「OPEN STREET+」の実施により、社会実験実施エリアの金剛駅前周辺と「金剛マルシェ」が開催された金剛銀座街商店街との間で通行量が増加し、回遊が生まれました。

○公園・緑地の分布と歩行空間

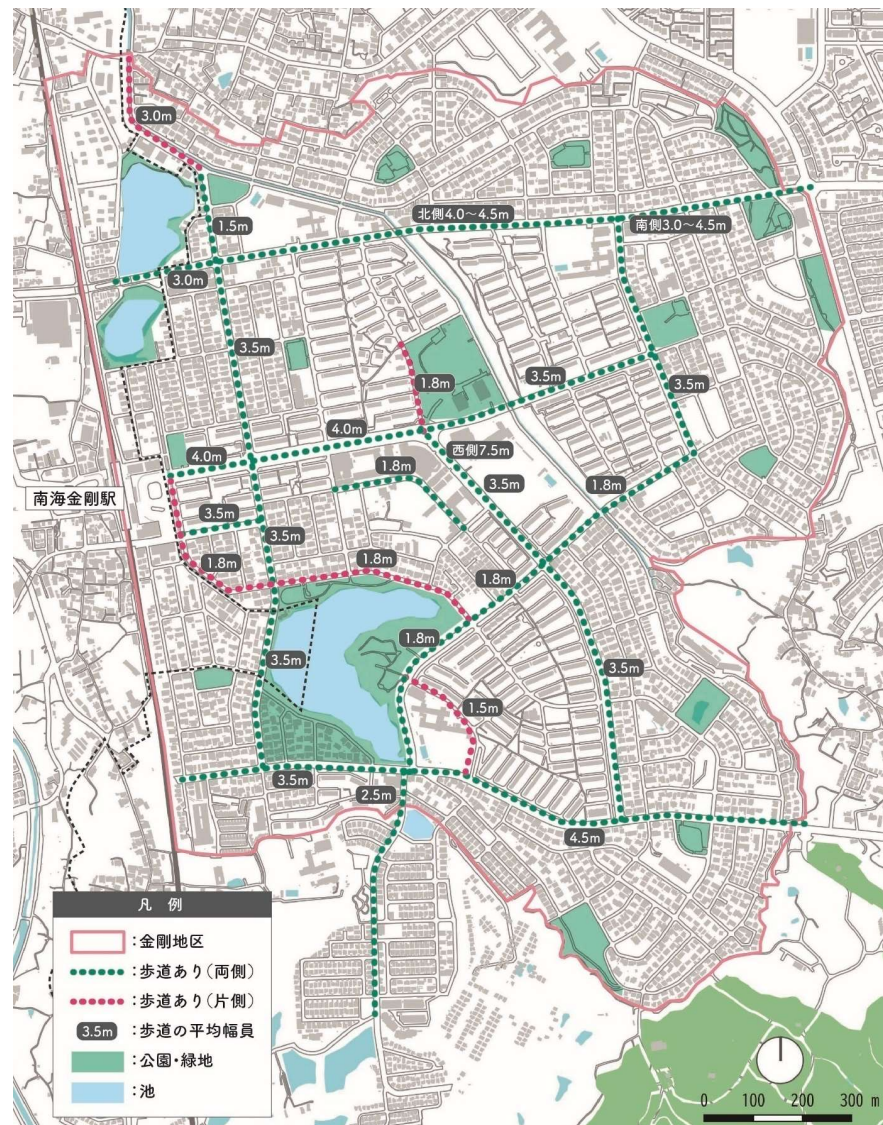
- 金剛地区内には緑豊かな16の街区公園と2つの緑地が分布しています。
- 特に、金剛駅周辺は金剛駅と金剛中央公園の間に久野喜台1号公園が立地し、ふれあい大通りの両側・中央分離帯に植栽帯が連なり、地区の顔と言える景観を形成しています。
- 金剛地区内は、十分な幅員のある歩道が地区内に整備されており、金剛駅周辺を起点に歩いて周遊することが可能です。



緑豊かなふれあい大通り（R6夏）



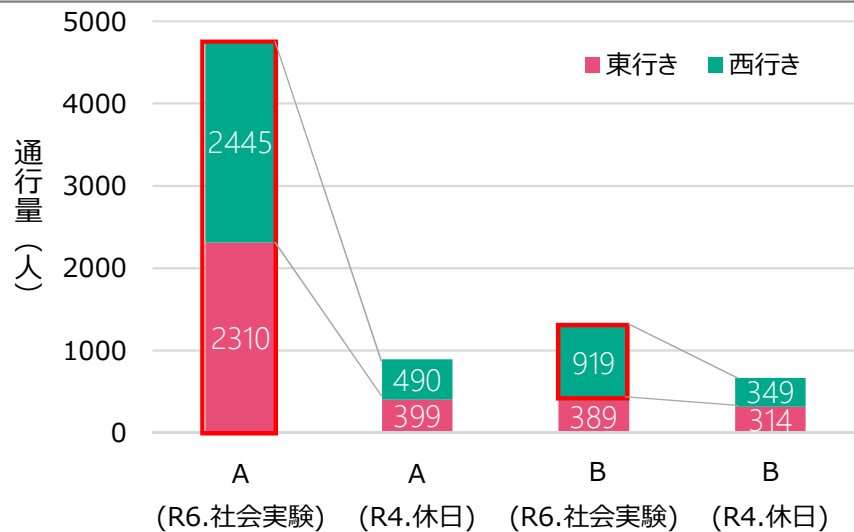
金剛きらめきイルミネーション（R6冬）



○ふれあい大通りの通行量

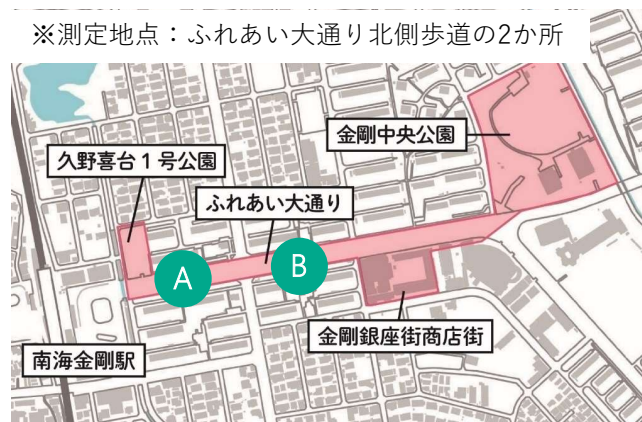
- 社会実験「OPEN STREET+」で実施した通行量調査では、駅前（A地点）の休日の通行量が増加していることに加え、金剛マルシェが開催された金剛銀座街商店街方面（B点・西行き）からの通行量が増えていることが確認できます。

通行量調査2地点の比較（R6年社会実験日・R4年休日）



※社会実験：10月26日(土)10時～16時の時間帯で実施
 ※R4調査：7時～19時の時間帯

※測定地点：ふれあい大通り北側歩道の2か所



○社会実験時のふれあい大通りの評価

- 同社会実験では、ふれあい大通り北側歩道において、自転車・車の通行規制や道路上でのキッチンカーの出店、歩道でのカウンター設置等空間形成とアクティビティの発生により「滞在しやすい空間」、「人中心の空間づくり」の評価が高くなっています。

社会実験での空間形成×アクティビティによる滞在性の向上（ふれあい大通り）

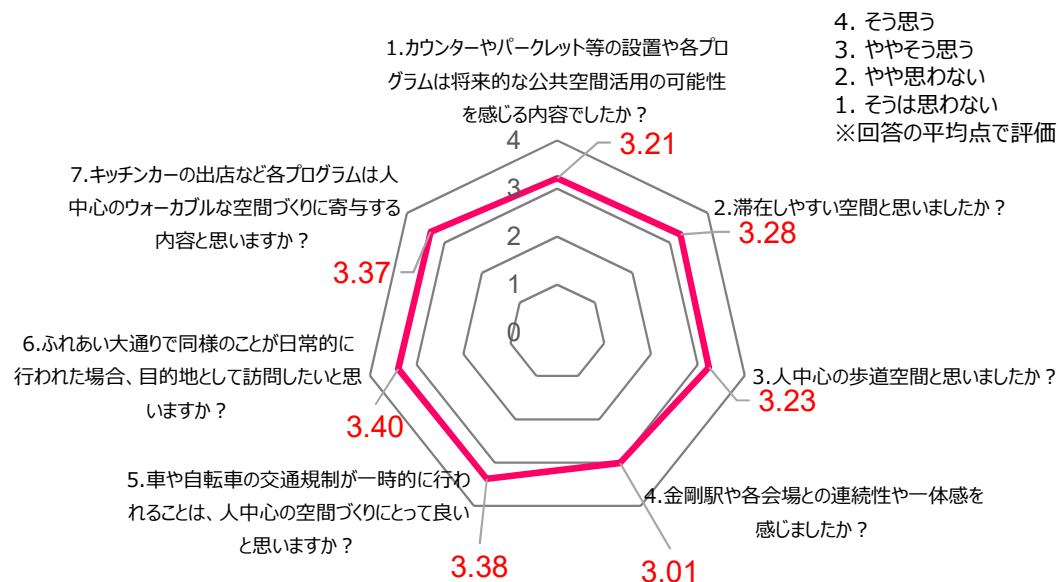
カウンターでしゃべりながら食事をする



ベンチに座り音楽を奏でる・聴く



ふれあい大通りの社会実験の評価（N = 106）





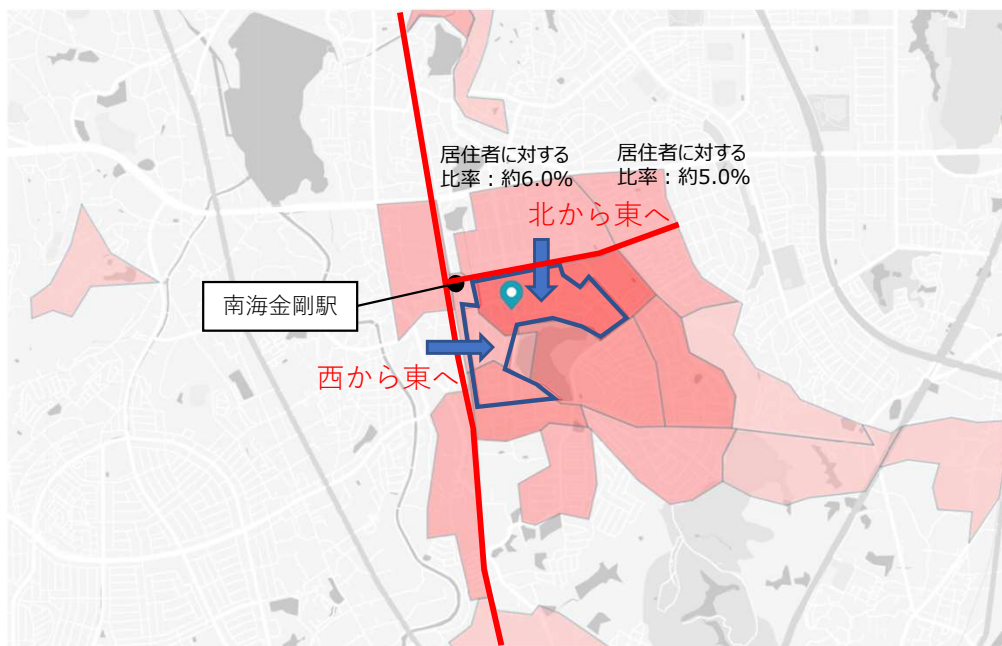
課題

- ・ 金剛駅周辺の日常的な移動の傾向として、金剛駅を境とした東西の移動や、南北の移動・回遊が乏しい状況にあります。
- ・ ふれあい大通りはまとまった幅員がありますが、歩行者と自転車の分離ができていません。
- ・ 金剛駅周辺と地区内が高低差が大きく、高齢者や身体が不自由な方等の日常的な移動に課題があります。

○ふれあい大通り・南海金剛駅を境とした人の動き

- ・ ふれあい大通りを境とした南北の回遊性は、全く存在しないというわけではありませんが、それでも**反対側のエリアから訪れる居住者の割合は10%にも満たない状況**です。
- ・ また、**南北と比べると東西は圧倒的に行き来が少ない状況**です。

金剛南エリアに訪れる人の居住地分布
(KLA (KDDI Location Analyzer) を用いた人流解析)

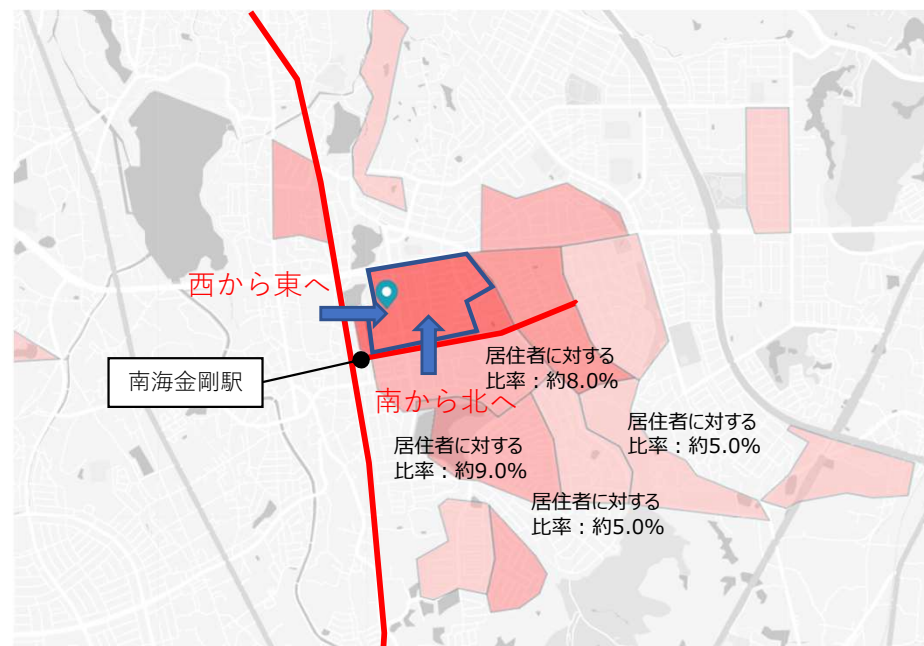


※抽出条件

R5年10月の31日間、時間帯：9：00～24：00

15分以上150分未満の滞在者で1か月の間に4回以上（週1回のペース）で訪れる人を抽出

金剛北エリアに訪れる人の居住地分布
(KLA (KDDI Location Analyzer) を用いた人流解析)



※抽出条件

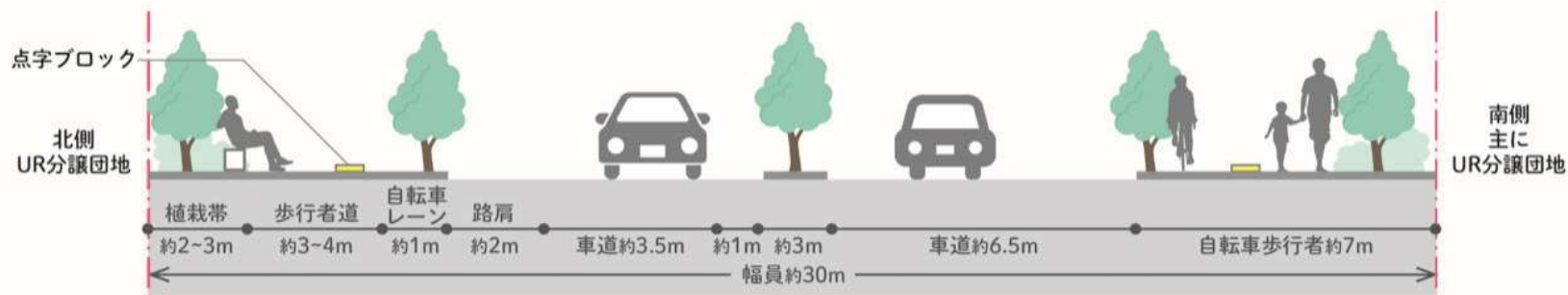
R5年10月の31日間、時間帯：9：00～24：00

15分以上150分未満の滞在者で1か月の間に4回以上（週1回のペース）で訪れる人を抽出

○ふれあい大通りの断面構成

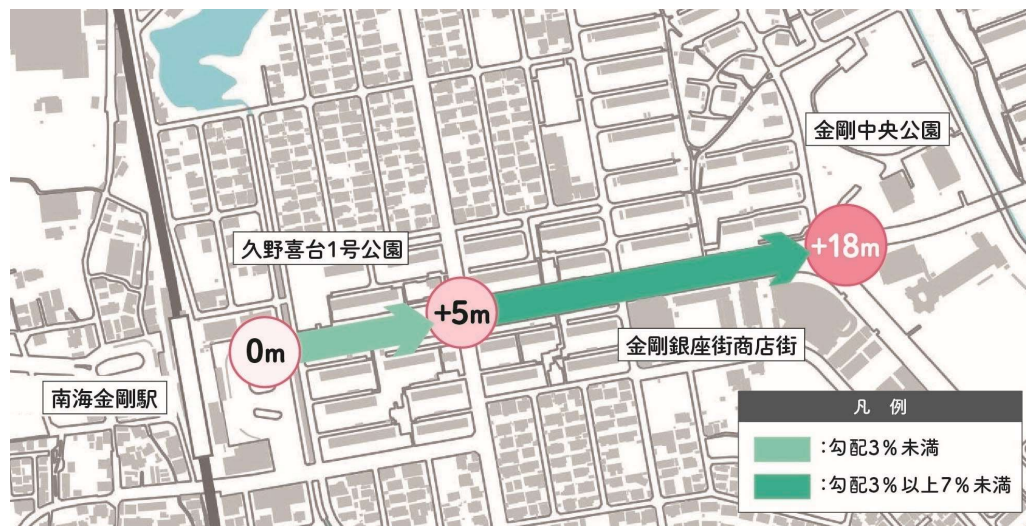
- ふれあい大通りは南北両側の歩道の幅員が植栽帯を含めて約7m程度ありますが、歩道に自転車レーンが含まれており、歩行者と自転車の分離ができていません。

現況



○ふれあい大通りの高低差

- 金剛駅東口から伸びるふれあい大通りは東に向かって坂道となっており、金剛駅周辺から金剛中央公園までの区間で、18m（5階建てのビル相当）の高低差があります。



3. 潜在力と課題の整理



金剛駅周辺の潜在力と課題を整理しました。

まちなかの居心地の良さ

快適な歩行環境・回遊性

潜在力

- 金剛駅周辺は、社会実験「OPEN STREET+」の検証から、アクティビティが起こることで目的地としてのポテンシャルがあると分かっています。
- 金剛銀座街商店街での毎月の「金剛マルシェ」は居心地の良い目的地となっています。
- 地区内には多数の小さな目的地が存在します。
- 金剛中央公園の再整備や金剛銀座街商店街の広場整備が予定されています。

- 金剛駅周辺は公園と連続する街路樹・植栽など四季を感じる豊かな緑が存在します。
- 金剛駅周辺には、周遊可能で快適な歩行空間があります。
- 金剛駅周辺と地区内に複数のアクティビティが起こることで、回遊が生まれることが分かっています。

課題

- 現在の公共施設等は、利用率が低い施設も多く滞在・交流を促進するアクティビティが少ないため、目的地として十分に機能していない状況です。
- 社会実験「OPEN STREET+」の検証から、目的地になるためには、空間形成だけでは不十分であることが分かっています。

- 地区内は東西方向の移動がメインでふれあい大通りを境とした南北、南海金剛駅を境とした東西の移動・回遊が乏しい状況です。
- ふれあい大通りはまとまった幅員がありますが、歩行者と自転車の分離ができていません。
- 金剛駅周辺と地区内には高低差があり、高齢者や身体が不自由な方等の日常的な移動に課題があります。

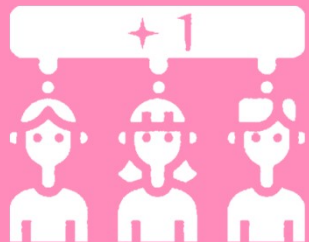
第1章

第2章

第3章 潜在力と課題

第4章

第4章



実現に向けた取組

1. 3つの基本方針
2. 各方針に基づく取組
3. 今後に向けて

1. 3つの基本方針



金剛地区の潜在力、課題等を踏まえ、以下の3つの方針に基づき、アクティビティの日常化に向けた取組や空間再編、仕組みづくりを推進していきます。

めざすまちの姿： **+ 1（プラスワン）** が生まれる、見つかる！

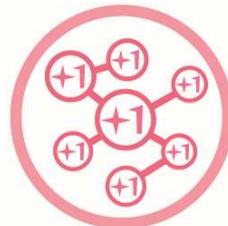
○基本方針



+ 1 が生まれる居心地の良い目的地をつくる



滞在・交流を促進する空間整備と共に、アクティビティが日常的に生まれ、定着する場づくりを広げていきます。



歩き・滞在したくなるネットワークをつくる



目的地を繋ぎふれあい大通り自体が目的地となる歩行空間整備等と共に、歩行者・自転車それぞれが通行しやすい安全で快適な環境づくりを進めます。



+ 1 があふれ・つながる仕組みをつくる



目的地が点在し、それをつなぐネットワークが機能するための基盤として、利用者と行政、地権者等が共に考え、協力・連携して実践するための仕組み・体制づくりを進めます。

第1章

第2章

第3章

第4章 実現に向けた取組

2. 各方針に基づく取組

フェーズ1（目途：1～3年） 目標：めざすシーンの可視化



方針1：+1が生まれる居心地の良い 目的地をつくる

- ①アクティビティの創出と取組への支援
 - ・ プレイヤーの発掘、取組支援
 - ・ 歩道・公園・広場等のスペースでの日常利用のスキーム検討
 - ・ アクティビティの日常化に向けた、周辺住民や地権者等の機運醸成（勉強会や意見交換の場づくり等）
- ②滞在・活動環境の整備
 - ・ 歩道や道路空間での仮設的な環境整備（パークレット等）
 - ・ 一時的な規制実施（歩行者と自転車の分離）
 - ・ URによる金剛銀座街商店街広場整備（予定）

方針2：歩き・滞在したくなる ネットワークをつくる

- ①ネットワークの形成
 - ・ 駅前や歩道空間での日常利用のスキーム検討（社会実験等による仕組みの検証）
 - ・ 目的地をつなぐ仕組みの検討、社会実験等を通じた取組実施（例：SNS等での一体的な情報発信、スタンプラリー、シェアモビリティ、合同イベント等）
- ②歩行環境の向上
 - ・ 歩道や道路空間での仮設的な環境整備（パークレット等）
 - ・ 一時的な規制実施（歩行者と自転車の分離）

方針3：+1があふれ・つながる 仕組みをつくる

- ①取組の自立に向けた仕組み
 - ・ プレイヤーの参加の仕組みづくり、チームビルディング、機運醸成
 - ・ 既存プレイヤーとの交流やつながりの場づくり（プラットフォームの形成等）
- ②活動できる仕組み
 - ・ 公園・歩道等の日常利用のスキーム検討
 - ・ 規制のあり方（規制緩和等）の検討
- ③取組の周知、理解醸成の仕組みづくり
 - ・ アクティビティをイベント的に狭いエリアで短期間で実施することでの取組周知
 - ・ 日常的な情報発信の仕組みづくり

社会実験の方向性

方針1：+1が生まれる居心地の良い目的地をつくる

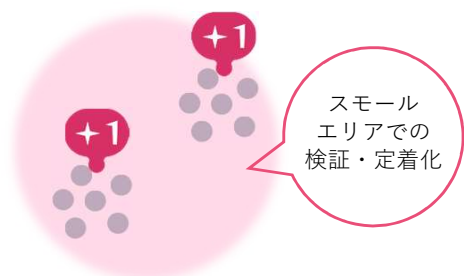
- ・ 金剛駅周辺等に短期間、仮設の滞在・活動空間を設け、将来的に必要と考えられる環境整備や、一時的な規制（自転車の分離等）による利用の仕組み、安全性等について検証

方針2：歩き・滞在したくなるネットワークをつくる

- ・ 地区内の既存取組（イベント等）との連携による回遊の促進

方針3：+1があふれ・つながる仕組みをつくる

- ・ 平日夜や土日等、アクティビティや交流を促進するプログラム等を実施することでその内容や運営体制・仕組み等について検証
- ・ 一時的な規制緩和（許可基準の緩和）、一時的な規制（自転車分離など）



フェーズ2（目途：4～6年） 目標：自立化に向けた取組



方針1：+1が生まれる居心地の良い 目的地をつくる

- ①アクティビティの創出と取組の支援
 - ・新規プレイヤーの発掘、育成
 - ・プレイヤーの取組支援
 - ・歩道・公園・広場等のスペースでの日常的な利用スキームの検証（暫定利用等）
- ②滞在・活動環境の整備
 - ・歩道や道路空間での仮設的な環境整備（パークレット等）
 - ・一時的な規制実施（歩行者と自転車の分離）
 - ・金剛中央公園の整備（予定）

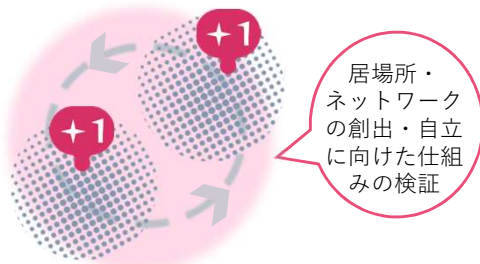
方針2：歩き・滞在したくなる ネットワークをつくる

- ①ネットワークの形成
 - ・駅前・金剛銀座街商店街・金剛中央公園・歩道でのアクティビティの検討
 - ・官民連携によるモビリティの検討
 - ・目的地をつなぐ仕組みの検討、社会実験等を通じた取組実施（例：SNS等での一体的な情報発信、スタンプラリー、シェアモビリティ、合同イベント等）
- ②歩行環境の向上
 - ・歩道や道路空間での仮設的な環境整備（パークレット等）
 - ・歩行者と自転車の分離、乗用車の通行規制（一時的な規制）

方針3：+1があふれ・つながる 仕組みをつくる

- ①取組の自立に向けた仕組み
 - ・組織化の検討（具体的な仕組み検討）
- ②活動できる仕組み
 - ・公園や歩道等での日常的な利用スキームの検証（暫定利用等）
 - ・規制のあり方（規制緩和等）の検討
- ③取組の周知、理解醸成
 - ・日常化を視野に、アクティビティを複数エリアでイベント的に短期間で実施
 - ・情報発信の仕組み検討

社会実験の方向性



方針1：+1が生まれる居心地の良い目的地をつくる

- ・複数エリアで短期間、仮設の滞在・活動空間を設け、将来的に必要と考えられる環境整備や、一時的な規制（自転車の分離等）による利用の仕組み、安全性等について検証

方針2：歩き・滞在したくなるネットワークをつくる

- ・複数地点での社会実験の実施
- ・地区内の既存取組（イベント等）との連携による回遊の促進

方針3：+1があふれ・つながる仕組みをつくる

- ・社会実験運営の段階的自立化（事務局機能のプレイヤー等への移行）
- ・一時的な規制緩和（許可基準の緩和）、一時的な規制（自転車分離など）

フェーズ3（目途：7年～） 目標：めざすシーンの日常化



方針1：+1が生まれる居心地の良い 目的地をつくる

- ①アクティビティの創出と取組の支援
 - ・ プレーヤーの自立化
 - ・ 歩道・公園・広場等のスペースでの日常的な利用スキームの運用
- ②滞在・活動環境の整備
 - ・ 公園・広場等のスペースの環境整備
 - ・ 歩道空間の環境整備
 - ・ 歩行者と自転車の分離

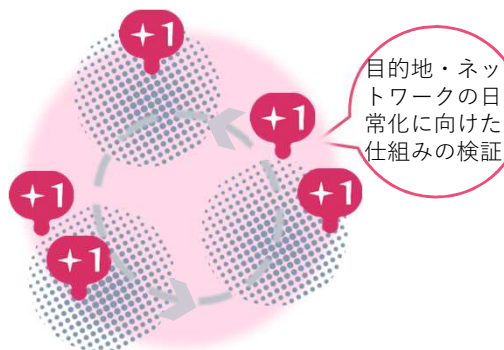
方針2：歩き・滞在したくなる ネットワークをつくる

- ①ネットワークの形成
 - ・ 居場所等をつなぐ仕組みの運用、ウォークブルエリアでのアクティビティの定着
 - ・ 官民連携によるモビリティの検討・実装
- ②歩行環境の向上
 - ・ 歩道空間の環境整備
 - ・ 歩行者と自転車の分離

方針3：+1があふれ・つながる 仕組みをつくる

- ①取組の自立に向けた仕組み
 - ・ プレーヤー等の組織化（仕組みの検証）
- ②活動できる仕組み
 - ・ 公園、歩道等の日常利用のスキームの運用
 - ・ 新たな規制の仕組みの実施
- ③取組の周知、理解醸成
 - ・ 社会実験を広いエリアで長期間実施
 - ・ 情報発信の仕組みの運用

社会実験の方向性



方針1：+1が生まれる居心地の良い目的地をつくる

- ・ 金剛中央公園等の整備等より目的地がウォークブルエリアに点在し、各所でアクティビティを促進するプログラム等を実施することでその内容や運営体制・仕組み等について検証

方針2：歩き・滞在したくなるネットワークをつくる

- ・ ウォークブルエリア全体での社会実験の実施
- ・ モビリティ等による回遊の促進

方針3：+1があふれ・つながる仕組みをつくる

- ・ 社会実験運営の自立化・定着（事務局機能の移行等）
- ・ 規制緩和（許可基準の緩和）、規制（自転車分離等）

3. 今後に向けて



○めざすまちの姿の実現に向けて



やりたいことにチャレンジできる場所がある

- だれでもチャレンジできる分かりやすい仕組みづくりやチャレンジする上でのルールづくりが必要です。
- 歩きやすく滞在しやすい歩道空間の環境整備が必要です。

安心して、楽しく歩ける

- 歩道空間と公園・広場等との一体的利用の検討が必要です
- 歩行者と自転車の分離について検討が必要です。



ふらっと立ち寄り、思い思いに過ごし共感できる

- ビジョンに描く将来のめざすまちの姿を広く知ってもらうことが必要です。
- チャレンジする人も参加する人も一息つきたい人も思い思いに楽しめる、理解・受容性の醸成が必要です。



思いと行動が広がり、つながる

- 魅力ある目的地をつなぎ、周遊したくなる仕組みが必要です。
- 高低差や物理的な距離を解消するための方策の検討が必要です。
- ウォークブルエリアのみならず、周辺エリアへの取組のにじみ出しや大阪狭山市と連携した、南海金剛駅西側との往来等、人流拡大の取組が必要です。



連携の力で、みんなで築く未来に向けたまちづくり

- プレイヤー同士の交流や新たな出会いが形となって連鎖し、連携を進めることで取組の更なる発展が期待できます。
- 大きなチャレンジの実現や新しいチャレンジを応援するプレイヤー同士の組織（コミュニティ）づくりが必要です。
- 官民の適切な役割分担による連携が必要です。



第1章

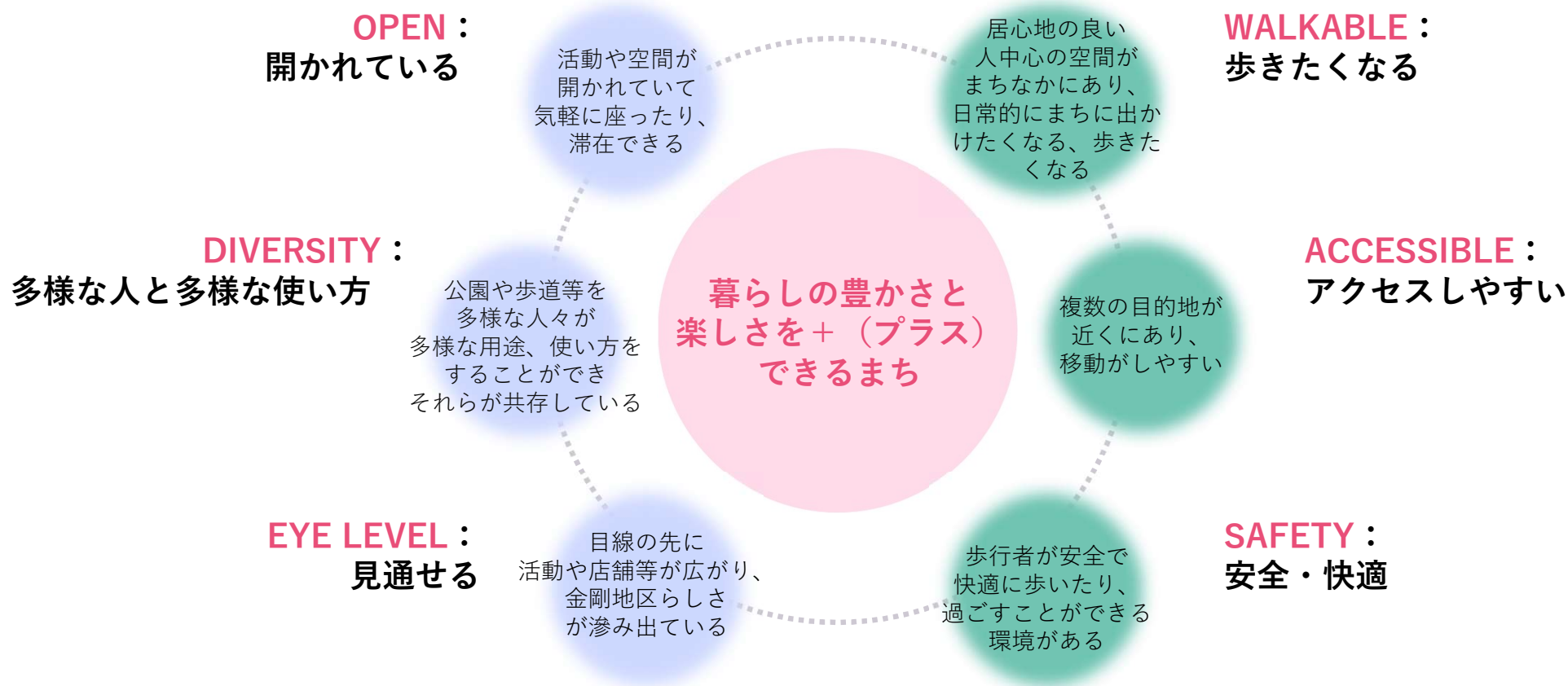
第2章

第3章

第4章 実現に向けた取組

○取組を進めるための視点

- 3つの基本方針「+ 1 が生まれる居心地の良い目的地をつくる」「歩き・滞在したくなるネットワークをつくる」「+ 1 があふれ・つながる仕組みをつくる」に基づく取組の推進に向けて、関係する各主体がそれぞれの役割のもと、以下の共通する視点をもって取組を進めていく必要があります。



○推進体制（期待する役割分担）

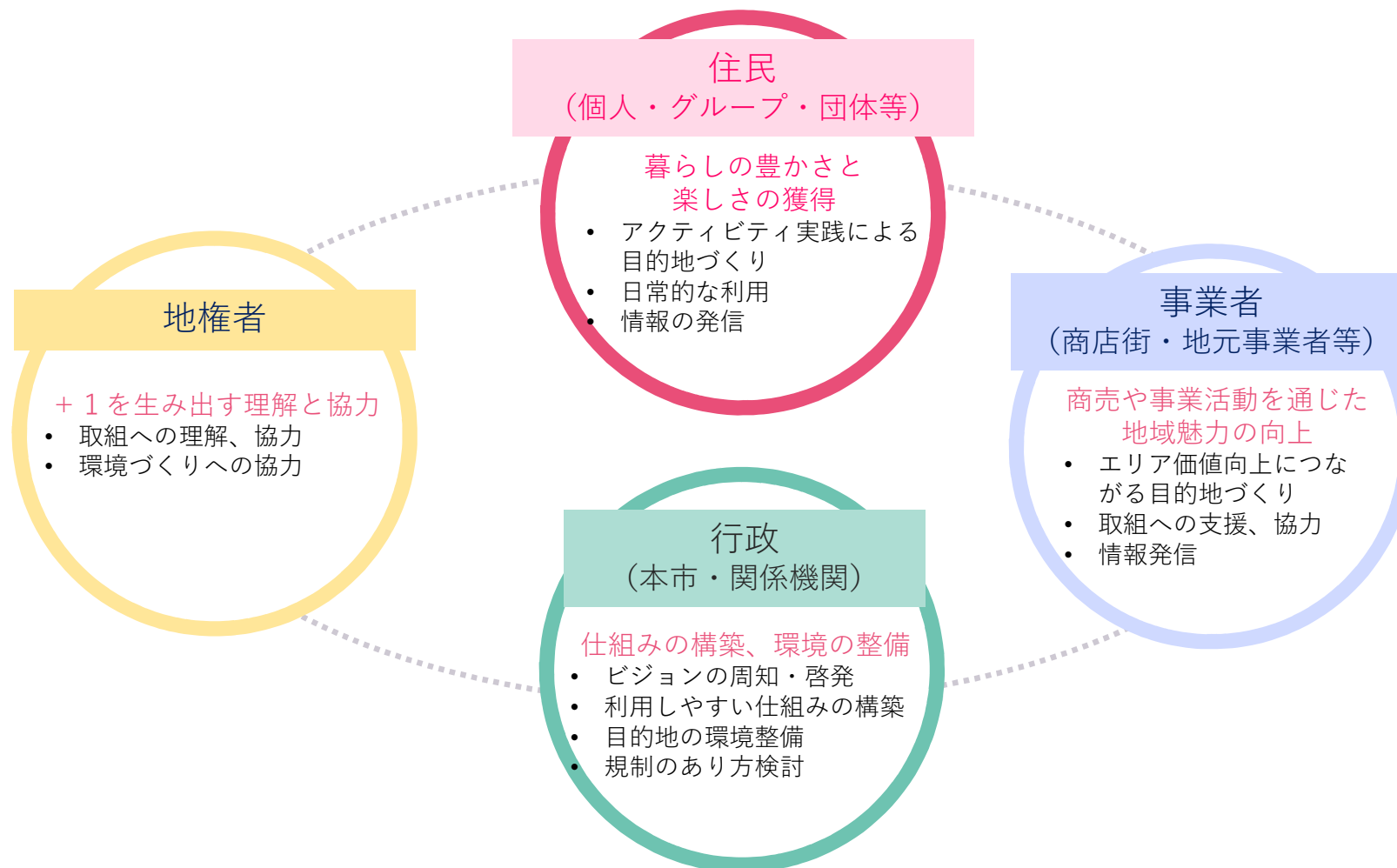
金剛駅周辺のめざすまちの姿「+1（プラスワン）が生まれる、見つかる！」を実現するためには、行政、住民、事業者、地権者等、各主体による継続的な取組と連携が不可欠です。

行政は、金剛地区全体や、隣接市も含めたまちづくりの波及を見据え、ビジョンの周知・啓発を進めるとともに、道路（歩道）や公園等の利用の仕組みの構築、必要な環境整備を進めます。

住民の皆さんには、まちなかに多様なアクティビティ（行動・活動）があふれることで、多くの人が暮らしの豊かさや楽しさを感じられるまちとなるよう、アクティビティの実践や日常的な利用（参加）など、楽しみながらまちに関わり、またそれらを情報発信し、新たな共感を生み出していく役割を期待しています。

事業者の皆さんには、事業を道路（歩道）や公園等のまちなかへと波及させることで、地域の魅力を顕在化し、エリアの価値を高めていく役割を期待しています。

地権者の皆さんには、本ビジョンを受容するとともに、多様なアクティビティへの協力や将来的な環境づくりへの協力に期待しています。



プラスワン

1 が生まれる・見つかる！

ウォーカブル HONGO

